

互いの取り組みからの気づき 平成26年度 地域づくり楽習会

～ みんな、集って楽しく“楽習”！ 大勢の皆さんの参加をお待ちしています ～

日時：平成27年3月15日(日)午後1時15分～
会場：さんぽく会館(村上市府屋)

《第1部》 地域や学校の取り組みからの事例発表

生まれ育った地域を学んだ成果や「山北の暮らし」をテーマとした写真撮影の成果、あるいは、各集落で取り組みを進めた事業について発表していただきます。

また、昨秋に当地へ調査実習に訪れた大学生からもその報告をしていただきます。

○山北中学3年生 総合学習成果発表

○村上桜ヶ丘高等学校写真部「山北の暮らし」をテーマとした写真成果発表

○各集落からの取り組み事例を発表

○明治大学農学部 小田切ゼミ生からの「農村調査実習」報告



《第2部》 参加者みんなで意見交換会

「意見や提案、そして取り組みからの気づき」として、参加していただいた方がグループに分かれて意見交換を行います。事例発表で気づいたことや普段考えていること。あるいは、今後、取り組んでみたいことなど。お互いの考えを交換しましょう！

《参加申し込み問い合わせについて》

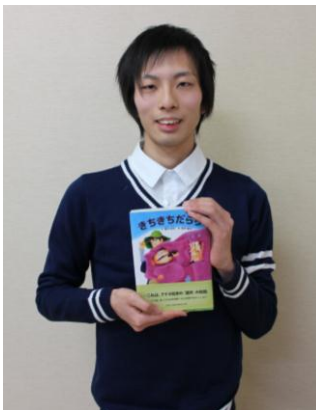
参加を希望される方は、協議会事務局までご連絡をください。

続報

童話作家：温出出身 加茂優也さんの処女作

「きちきちだらり」2月15日(日)いよいよ発売！

「きちきちだらり」は新しい物語の形。お子さんから大人まで楽しめる一冊です。そんな作者の加茂さんの横顔をちょっと紹介します。



題 「きちきちだらり」
作 笹川 永礼 (ペンネーム)
出版 文芸社
定価 900円+税

「人間らしくありたい！」と高校生のころから思いがあった加茂さん。そのことを実現するために、卒業後東京の俳優養成所に入り、2年間演技を学び「自らの表現力」に磨きをかけています。今回の作品では「自らの価値は押し付けたくない」という思いから「皆さん一人ひとりが感じる可能性を読み取っていただきたい」と話していました。

また、作品の中に込めたというメッセージについて「読んでいただく方がどうとらえ、どう感じ・・・そして、一人ひとりがどんな答えを見つけていただけるか、とても楽しみです」とも加茂さんは話していました。

皆さんもぜひ、この物語を体感してみませんか？

編集後記

「今年は大丈夫だろう。暖冬のようなだし」と、降雪前、知人と話した内容です。話題は、雪下ろしのこと。昨年はまぬがれたので、今年もと期待を込めながら話をしました。

しかし、その期待もむなしく、先月の半ばあたりに雪下ろしをしました。おかげで、いい汗をかかせていただきましたが、難儀でしたね。

ただ、良かったことが一つ。屋根からの集落の風景が見られたことです。しかも晴天の中で、かなり得をした気分でした。

さんぽくまちづくり通信

第 1 2 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成27年(2015年)2月13日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 (住所) 〒959-3993 新潟県村上市府屋 232
(TEL)0254-77-3111 (FAX)0254-77-2217 (E-mail)s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

8月17日(日)に開催した「ふるさと山北の夏祭り」
750人の皆さんから参加していただき、ふるさと「山北の夏」を盛り上げていただきました。



10月10日(金)「山北地区のまちづくりについて考える会」を開催。
山北中学校3年生の皆さんと一緒に意見交換しました。

今年度を振り返る

「定住の里づくり」を基本目標に掲げ、各種の取り組みを進める山北地区まちづくり協議会。

多くの皆様のご協力をいただき、今年度も取り組みを進めることができました。ありがとうございました。

爽やかな春から日差しがふりそそぐ暑い夏、母なる大地の恵みを実感する秋まで、賑わいや活気が各所で見られました。

振り返ると各種の取り組みをとおして様々なつ

ながりが生まれたと思います。

それは、各集落や各団体などで実施したイベントであったり、食をとおしてであったり、本誌の記事であったりと様々です。

そして、つながりをより実感されたのは、かわりの場に身を置いた皆さん自身ではないでしょうか。

今号では、つながりを実感させる各団体や集落などで実施した事業を振り返ります。

出会いとふれあいからのつながり

多くの事業に協力し、取り組みを進めさせていただきました



山北ボランティア連絡協議会が主催した「さんぽく福祉まつり」に共催。6月8日（日）、地域内の各グループも参加し、来訪者は約1,200人。賑やかに開催されました。



さんぽく軽トラ市実行委員会が主催した「さんぽく軽トラ市」に共催。昨年度から開催し、今年度は6月～10月まで5回計画。天候の関係で、8月は中止となりましたが、延べ約2,800人の皆さんから来場いただきました。



山北地区内小中学校3校と、各地域の皆さん、まちづくり協議会が連携して行った「三校クリーン作戦」6月20日（金）380人の皆さんから参加していただき、盛夏を前に海岸の清掃を中心に行いました。



小中学校と連携した「あいさつ運動のぼり旗整備」と「花のプランター整備」。小中学生が考えた「あいさつ標語」の「のぼり旗」は、各集落へも配布させていただきました。



集落、地域の元気づくりを進める皆さんの活動支援を行う「集落の元気づくり支援」今年度は27事業に、総額1,700千円の支援となる予定です。



府屋学校町：古館城址納涼祭

さんぽくごつお物語協議会と連携して行った「先進地視察研修」。今年度は11月24日（月）～25日（火）にかけ、昨年の楽習会で講演いただいた長野県上田市「信州せいしゅん村」へ。23人の方から参加いただき、さらに刺激を受けてきました。

この他にも各種事業が山北地区内の各地で行われ、多くの皆さんが参加されました。参加した皆さんも、主催者も楽しんで行われたと思います。ただ、その「楽しみ」は、それぞれの立場で違うもので、おいしい食べ物で楽しくなったり、にぎやかな催しで楽しくなったりと様々ですが、主催者側は、おいでになった皆さんの「笑顔」が一番楽しくなります。今回、この1年間、分かち合った楽しみを3月15日（日）に開催する「地域づくり楽習会」で、再確認していただければと思います。4ページにご案内を掲載いたしましたので、ぜひご参加ください。

【山北の暮らし⑨「薪」】

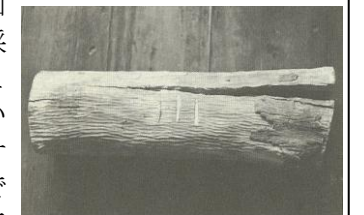


厳冬の中、家々から立ち上る煙

煙突から立ち上る煙は、厳冬の中だからこそ温もりを感じます。煙は、最近見直され始めた「薪ストーブ」のもの。古いものを更新したお宅や新規にストーブを購入した

お宅も多いのではないかと思います。その燃料の「薪」は、近年ではホームセンターなどでも販売していますが、当地区では、山林から切り出してくるのが大半ではないかと思

います。その昔、「米は貸しても、薪は貸すな」といわれたほど大切にしていた薪。暖をとるためにはもちろん、煮炊きのために用いられました。最近も、製塩業をされる方々に使われていますが、薪はもともと「塩木」として大量に使われて



「塩木」を出した家分かるように記した「ハン」（山熊田）

7月中旬ごろから山に入りお盆まで伐採され、稲刈りをするころまで、無駄が出ないような寸法で「コナシ」を行ったそうです。その後、春先まで薪を乾かし、5月の豊水期の雪解け水と共に山間部の集落から海岸部の集落へ流されたそうです。一年かけて、燃料を調達していたのですね。

電話一本で燃料が届く現代とは、時間的にもゆとり的にも格段にスケールが違っていました。



現代の便利さや多様な暮らしの「物差」と、「薪」が日常の暮らしの中心にあった時代の「物差」を今一度見比べて見て、「心の豊かさ」や「つながり」の深さについて思いを巡らせる、そんな、ふるさとの煙たなびく冬の光景です。

お知らせ

山北地区まちづくり協議会では「フェイスブックページを開設」しました。以下のアカウントとなりますので、皆さん「いいね！」を押して、参加してください。フェイスブックアドレス www.facebook.com/sanpoku.matidukuri

